

■児童の学力の状況

- 学習に意欲的に取り組む児童が多く、「知識・理解」については学習内容が身に付いている児童が多く見られるが、「思考・判断・表現」の力については、苦手意識をもつ傾向がある。
- 「板橋区学習ふりかえり調査」及び「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、基礎的・基本的な学習内容については概ね定着している児童が多く見られるものの、個別に支援の必要な児童も見られる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 本時のめあてが達成できたかを児童自身が振り返る時間を取れないことがある。
- 児童一人ひとりの考えを友達同士で交流する場面で対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる指導を工夫する必要がある。
- 学習内容の定着が困難な児童への補充的な指導時間の確保や、家庭学習の習慣化についての啓発が難しい。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 学習規律を徹底し、学びに向かう姿勢をしっかりと身に付け、共に学び高め合おうとする学級風土を培う。
- 「板橋区授業スタンダード（めあて→思考の流れ→振り返り）」の徹底した授業の流れを構築する。
- 思考力・判断力・表現力を培い、課題解決に向け進んで自分のやり方で取り組み、自分なりの結果を出し、そこから新たな方策を導き出そうとする能力を育成する。
- 児童の実態に基づき、問題解決型・探究型の学習、ICT機器の活用等、多様な教育活動の展開を工夫する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	基礎的・基本的な学習の定着
○各教科等の授業において、「課題設定→情報収集→分析・考察→課題解決→新たな課題設定」等の学習の流れを定着させる。	○ペアやグループ、学級全体など、その学習に合った学習集団や学習形態を工夫し、児童が互いの考えを伝え合う場を意図的に設定する。	○本時の具体的なめあてを提示し、児童がめあてに対して振り返りを行う時間を毎時間設定する。 ☆学力補充の場として、学習習慣を身に付ける機会として、放課後学習に取り組む。

（☆は、学びのエリアで共通）

■板橋区教育委員会グランドデザイン2018の実現に向けた取組

確かな学力の定着	教員の指導力向上	豊かな心と健やかな体の育成	社会に開かれた教育課程の実現等
☆学習のねらいの明示と振り返り、まとめを毎時間行い、「板橋区 授業スタンダード」に基づいた授業を全学級で行う。 ○「全国学力・学習状況調査」「児童・生徒の学力向上を図るための調査」「ふりかえり調査」の結果を学力向上部会を中心に分析し、各学年で正答率の低い分野に家庭学習や補習教室で取り組む。	○全学級でICT機器を効果的に活用し、重要な部分を拡大して提示したり児童の考えの共有化を図ったりする。 ○教職員の課題に応じ、板橋区教育支援センター主催の研修に積極的に参加するとともに校内OJTを推進し教員の指導力の向上を図る。	○道徳の教科化に向け、考え議論する道徳の授業を全学級で行い、評価についての研修を行う。 ○校内研究においてオリンピック・パラリンピック教育の推進について検討し、教科の垣根を越え、5つの資質（ボランティア、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚）に向けて児童を育成する。	○「家庭学習の手引き」について家庭に周知し家庭と連携して、自ら学ぶ習慣をつけ、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ☆読書活動に親しみ、読んだ本を振り返るために、9年間継続して読書記録をつけさせていく。